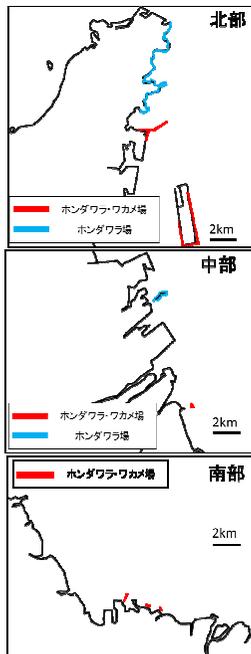


①対象海域の概要



干潟の分布域



藻場の分布域

豊前海は、瀬戸内海西部に位置する内海性の海域で外海水の影響は少ないが、気象の影響を大きく受けることから、1年を通して環境変動の激しい海域である。沿岸域では北九州市から吉富町にかけて広大な干潟が分布する一方、小規模ながら一部の海域で藻場が確認される。

豊前海では小型底びき網や小型定置網、固定式さし網やかご等の漁船漁業が営まれており、カレイ類、クルマエビ、ガザミ、メバル、カサゴ等が漁獲されている。



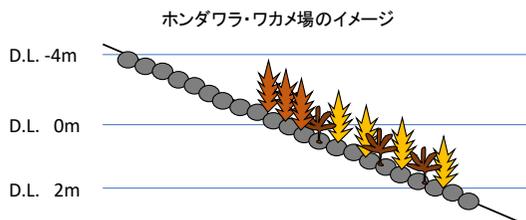
干潟のカレイ類、ガザミ等



増殖場のカサゴ



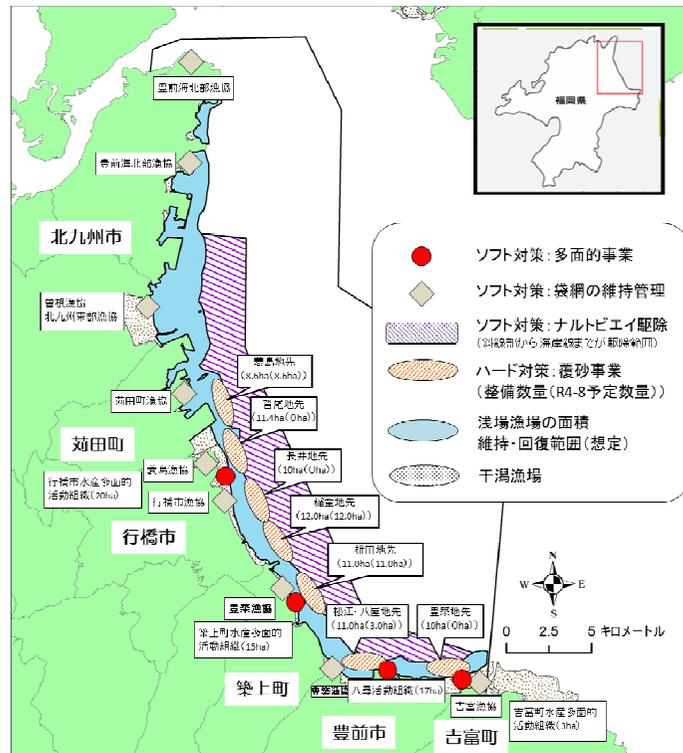
藻場のアカモク



- 主要な構成種
- ヒジキ
 - アカモク
 - ワカメ

②藻場・干潟の保全・創造に向けた行動計画

ハード・ソフト対策の箇所と内容



干潟の対策箇所



藻場の対策箇所



ナルトビエイの駆除



アサリ育成用の網袋を設置



母藻投入



投石漁場

【モニタリング】

干潟では、年に1回程度、主要なアサリ漁場やカレイ類稚仔魚の漁場において底質環境や生息状況を調査する。
藻場では分布面積、種組成等を潜水目視調査等により評価し、造成効果をモニタリングする

【評価・検証】

モニタリング結果を県行政及び研究機関、関係市町、民間企業、漁業者等と共有し、目標に達していない場合は必要に応じて取組内容の見直しを行う。